

第2章 地域の概況

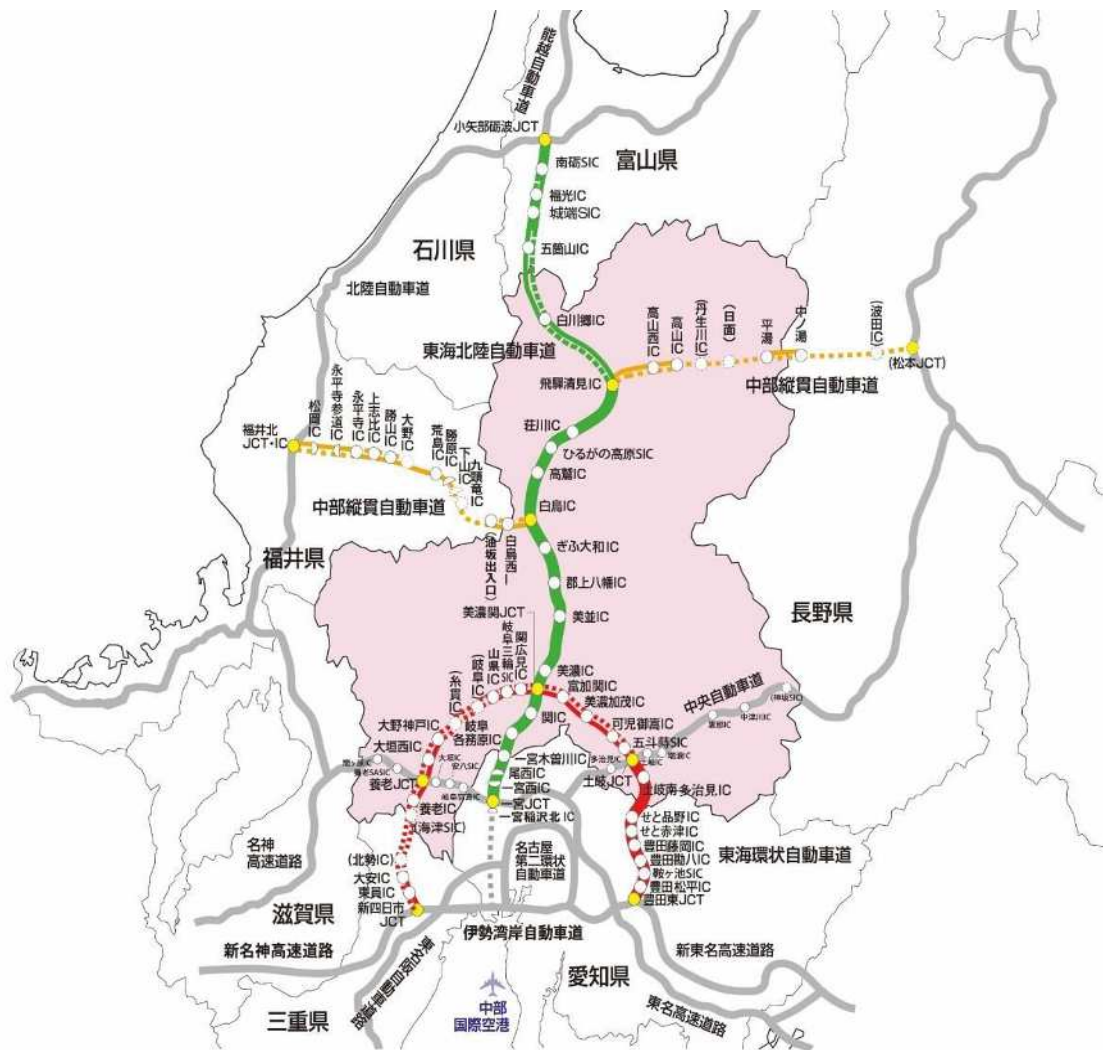
第1節 地勢と交通

1 地勢

岐阜県は本州のほぼ中央に位置し、全国で数少ない内陸県の一つです。県の北部及び東部の大部分は山地で、南部に濃尾平野の一部である美濃平野があります。北東部県境には、海拔3,000mを越す山々を連ねた「日本アルプス」と呼ばれる飛騨山脈があり、西部県境には、海拔2,000m内外の両白山地や、伊吹山地等があります。これらの山地の間に、飛騨高地・美濃高原があり、北部から南部へと高度と起伏を減じながら、海拔0mの水郷地帯に及んでいます。

2 土地利用・交通条件

岐阜県の総面積は10,621km²で、全国で第7位の面積を誇ります。しかし、その大半を森林が占めており、可住地面積率は20.8%（令和3年10月1日現在。全国で45位）と低くなっています。県の北部山間部は、可住地が点在し、道路交通に大きく依存しています。本県における一世帯当たりの自家用自動車保有台数も1.545台（令和4年3月現在。全国で第8位）と高くなっています。



第2節 人口及び人口動態

1 総人口

岐阜県の総人口は、平成12年から平成17年にかけて減少に転じ、その後減少が続いています。令和2年には1,978,742人となり、最高値となった平成12年に比べ128,958人、約6%の減少となっています。圏域別にみても、平成27年までに全ての圏域が減少に転じました。平成7年と比べると、飛騨圏域の減少割合が最も大きくなっています。

表1-2-1 岐阜県人口の推移

(単位:人)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
総人口	2,100,315	2,107,700	2,107,226	2,080,773	2,031,903	1,978,742
男性	1,019,549	1,022,186	1,020,570	1,006,247	983,850	960,436
女性	1,080,766	1,085,514	1,086,656	1,074,526	1,048,053	1,018,306
増加率(%)	-	0.35	▲ 0.02	▲ 1.26	▲ 2.35	▲ 2.62
指数	100.0	100.4	100.3	99.1	96.7	94.2

【出典：国勢調査（総務省統計局）】

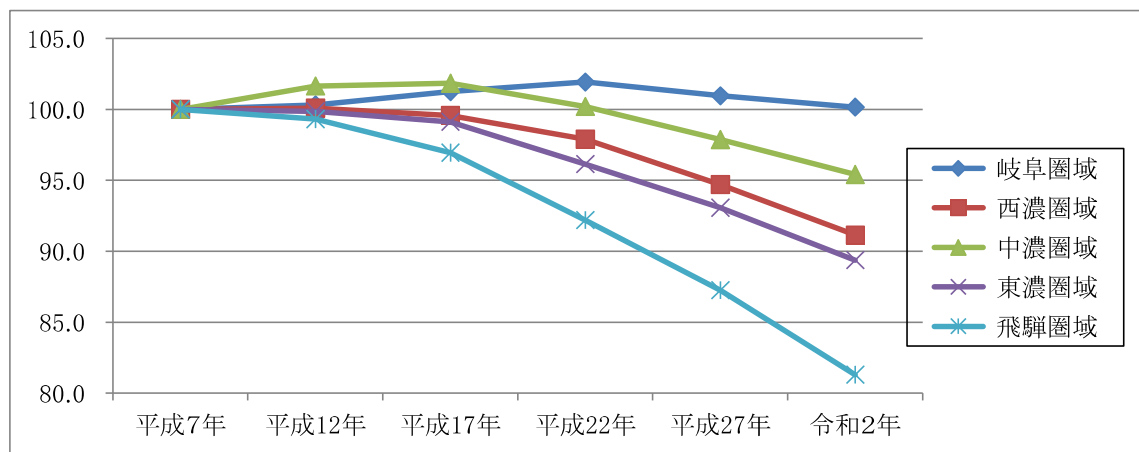
表1-2-2 圏域別人口の推移

(単位:人)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
岐阜圏域	792,274	794,691	802,218	807,571	799,766	793,551
西濃圏域	393,279	393,645	391,637	385,021	372,399	358,439
中濃圏域	381,833	388,108	388,877	382,570	373,712	364,282
東濃圏域	362,080	361,559	358,884	348,085	336,954	323,574
飛騨圏域	170,849	169,697	165,610	157,526	149,072	138,896
合計	2,100,315	2,107,700	2,107,226	2,080,773	2,031,903	1,978,742

【出典：国勢調査（総務省統計局）】

図1-2-1 圏域別人口の推移



【出典：国勢調査（総務省統計局）】 ※各圏域の平成7年の人口を100とした場合の人口の推移

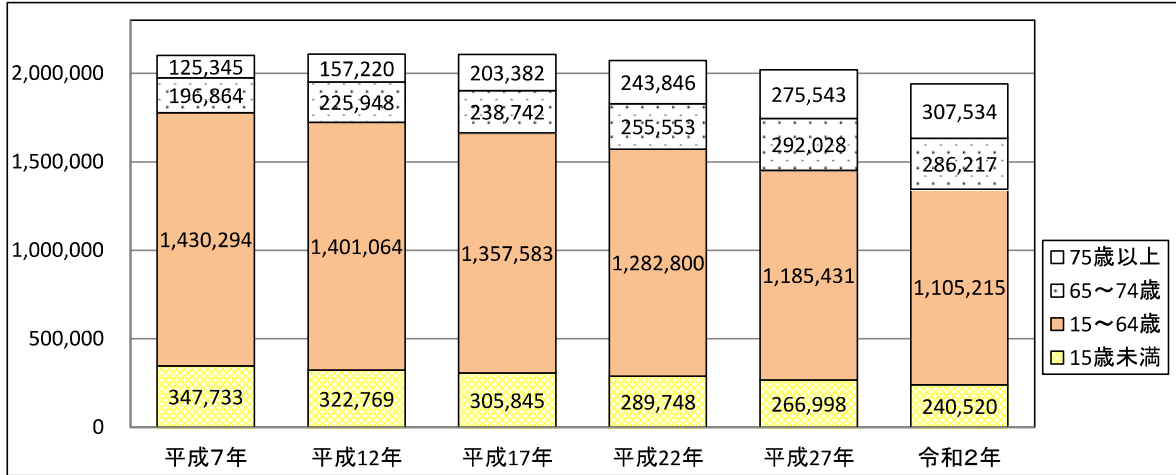
2 人口構成

本県では、15歳未満と15～64歳の年齢区分別人口が減少を続ける一方、65歳以上の高齢者は年々増加しており、令和2年には約31%が65歳以上の高齢者となっています。なお、平成27年から令和2年にかけては、それまで増加を続けていた65～74歳の年齢区分別人口が減少に転じています。

圏域別では、特に飛騨圏域の高齢者の割合が約36%と、他の圏域に比べ高くなっています。

図1-2-2 年齢区分別人口の推移

(単位:人)



【出典：国勢調査（総務省統計局）】 ※年齢「不詳」は含まない。

表1-2-3 令和2年における圏域別の年齢区分別人口

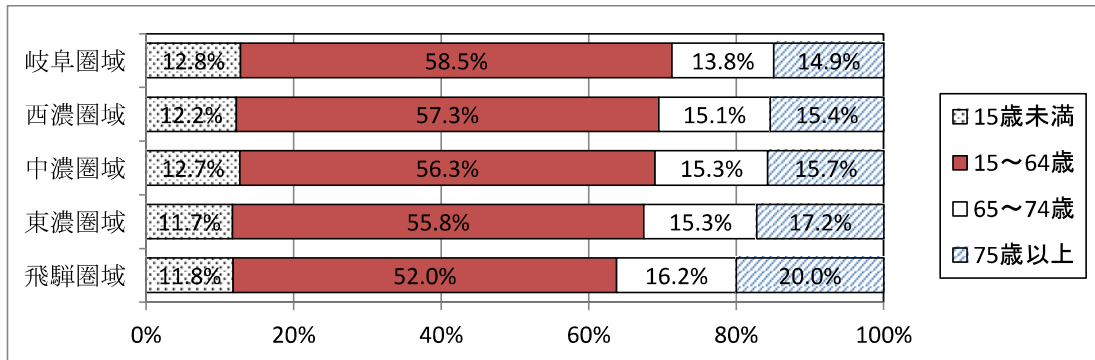
(単位:人)

	岐阜圏域	西濃圏域	中濃圏域	東濃圏域	飛騨圏域	計
15歳未満	97,480	43,428	45,620	37,605	16,387	240,520
15～64歳	447,611	204,163	202,235	179,295	71,911	1,105,215
65～74歳	105,764	53,864	54,936	49,307	22,346	286,217
75歳以上	113,892	54,646	56,168	55,181	27,647	307,534
合計	793,551	358,439	364,282	323,574	138,896	1,978,742

【出典：国勢調査（総務省統計局）】

※合計には年齢「不詳」を含むため、年齢区分別人口の計と一致しない。

図1-2-3 令和2年における圏域別の年齢区分割合



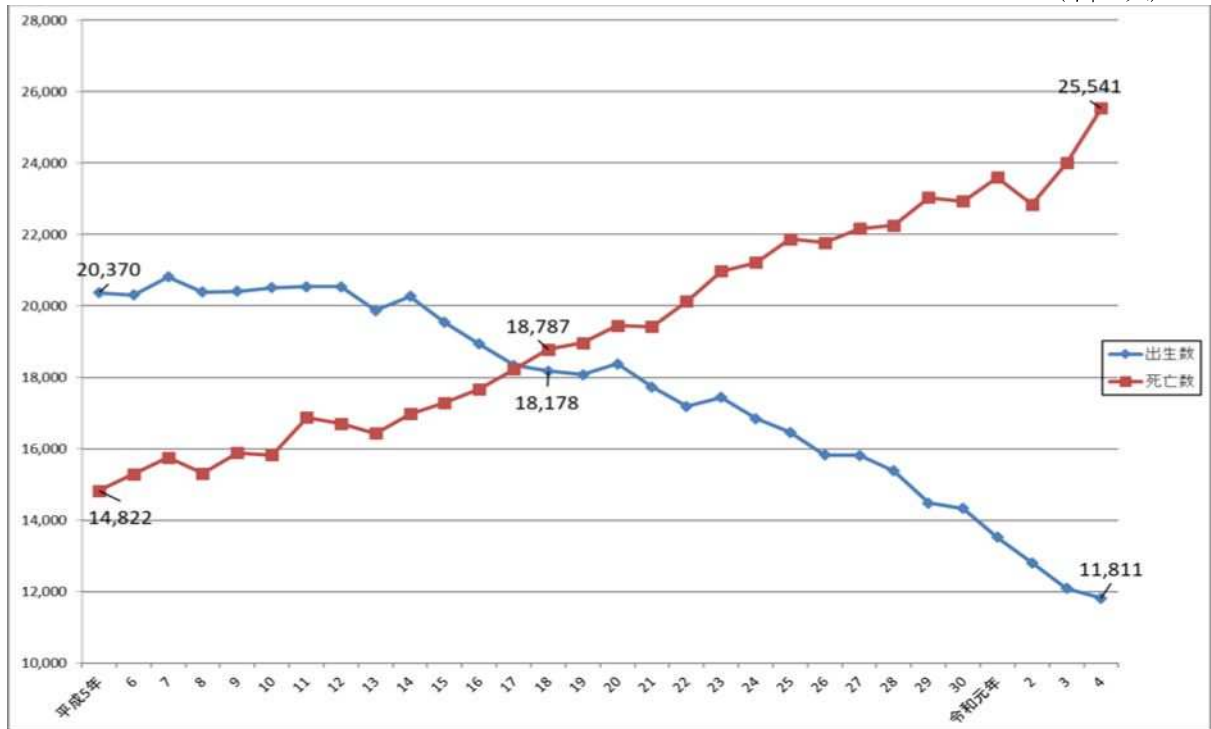
【出典：国勢調査（総務省統計局）】

3 人口動態（出生数・死亡数）

本県における出生数は減少傾向が続く一方、死亡数は増加しています。平成18年に死亡数が出生数を上回り、それ以降、その差は拡大しています。

図 1-2-4 岐阜県の出生数及び死亡数

(単位:人)



【出典：岐阜県統計書（岐阜県）】

4 将来推計人口

本県の将来推計人口は、令和27年（2045年）には約156万人となり、令和2年の人口（約198万人）から40万人以上減少すると見込まれます。一方、65歳以上の高齢者人口は横ばいが続く見込まれますが、75歳以上人口については令和12年（2030年）以降に減少に転ずると見込まれています。

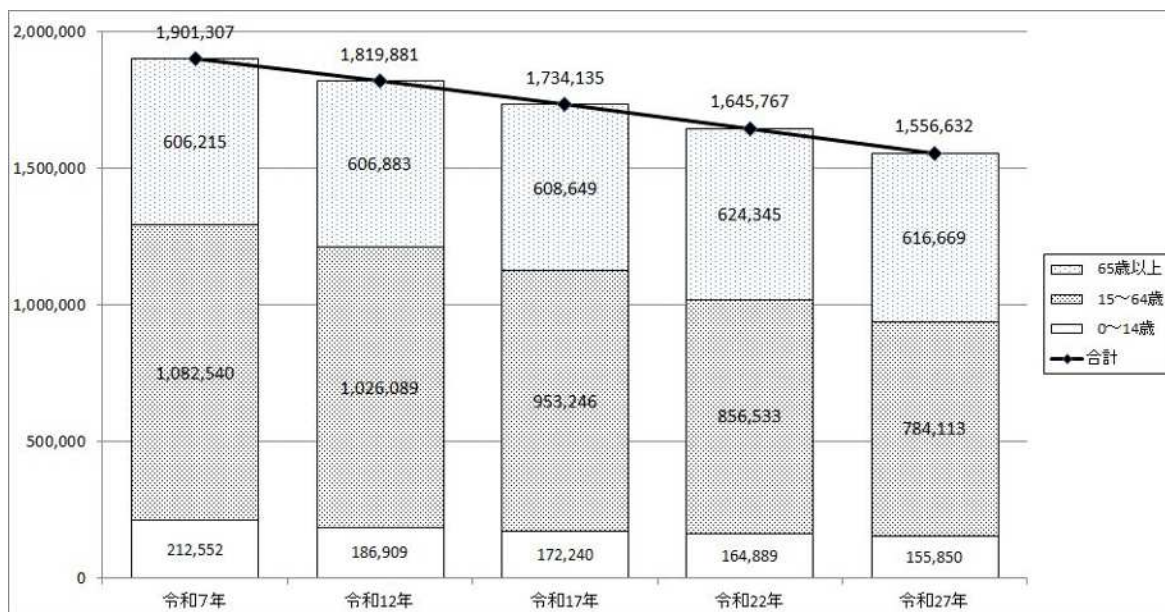
表 1-2-4 岐阜県の将来推計人口 (単位:人)

	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年
0～14歳	212,552	186,909	172,240	164,889	155,850
15～64歳	1,082,540	1,026,089	953,246	856,533	784,113
65歳以上	606,215	606,883	608,649	624,345	616,669
65歳～74歳	245,588	231,764	241,041	263,265	255,254
75歳以上	360,627	375,119	367,608	361,080	361,415
合計	1,901,307	1,819,881	1,734,135	1,645,767	1,556,632

【出典：日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）】

図 1-2-5 将来の人口構成

(単位:人)



【出典：日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）】

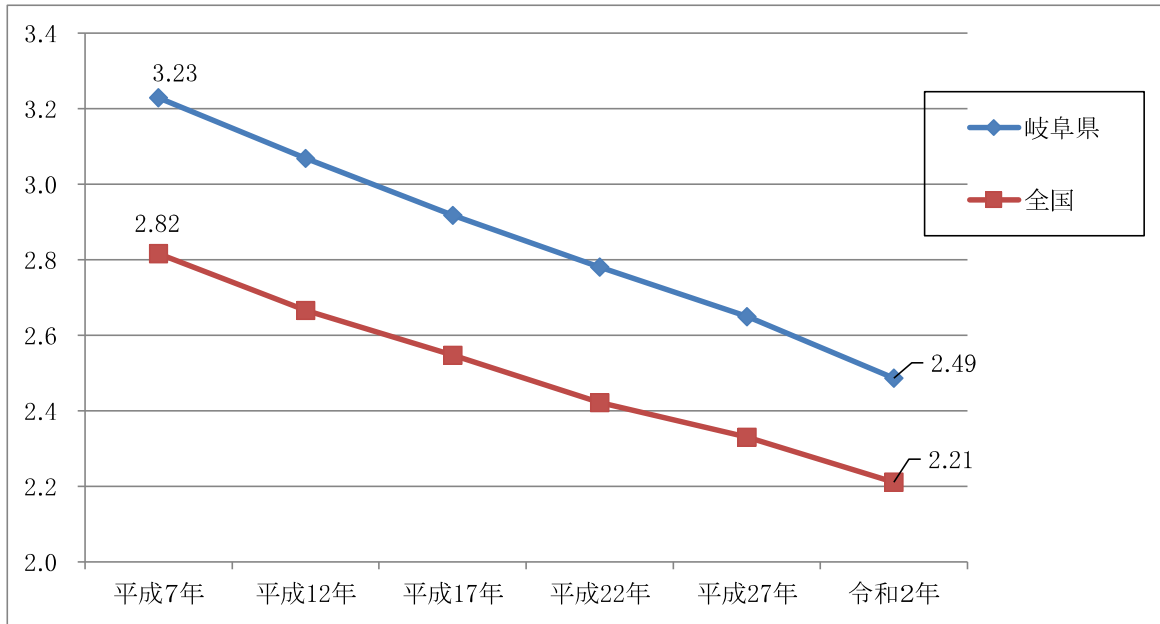
5 世帯人員数

本県における1世帯当たりの人員数は、全国値より高く推移しているものの年々減少しており、令和2年には2.49人/世帯となっています。

高齢者単独及び高齢夫婦のみの世帯数が一般世帯総数に占める割合は、今後も増加が続くと考えられ、令和22年までに3割を超える見込みです。

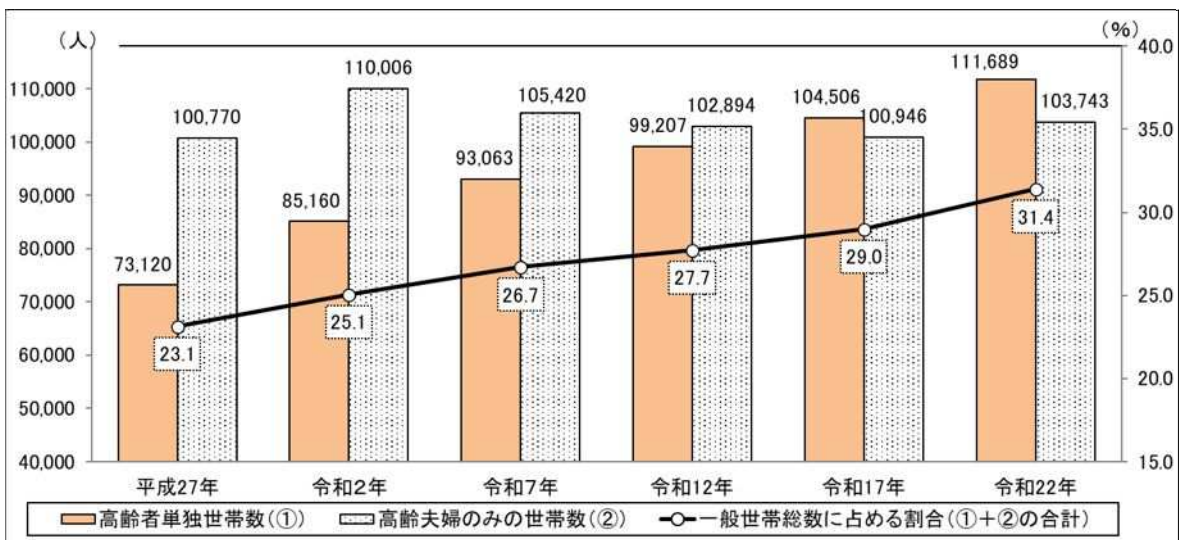
図1-2-6 1世帯当たり人員

(単位:人/世帯)



【出典：国勢調査（総務省統計局）】

図1-2-7 高齢者単独及び高齢夫婦のみの世帯数の推計



【出典：国勢調査（総務省統計局）、日本の世帯数の将来推計（国立社会保障・人口問題研究所）】

※令和2年以前は国勢調査、令和7年以降は日本の世帯数の将来推計

※「高齢夫婦のみの世帯数」：世帯主が65歳以上である世帯数

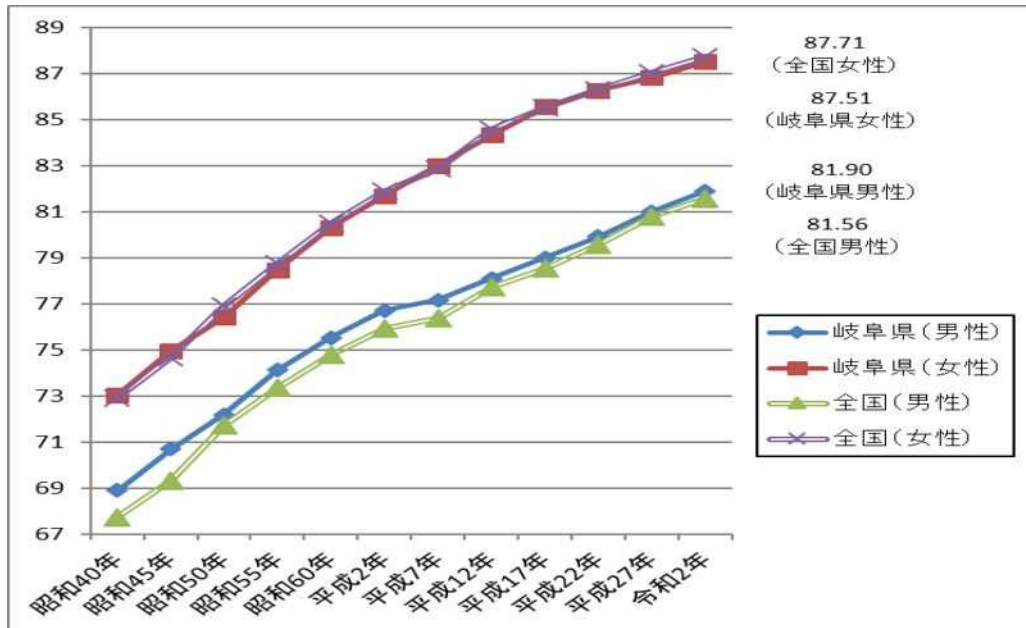
6 平均寿命と健康寿命

本県の平均寿命は男女ともに年々延伸しています。全国の中では、令和2年には高い方から数えて男性は11位(81.90歳)、女性は28位(87.51歳)となっています。男性と女性で約6歳の開きが生じています。

また、健康寿命²との差は、男性は8.82歳、女性で11.33歳となっています。人生100年時代を健康に暮らしていくために、健康寿命を延伸し、平均寿命との差を縮小することが重要です。

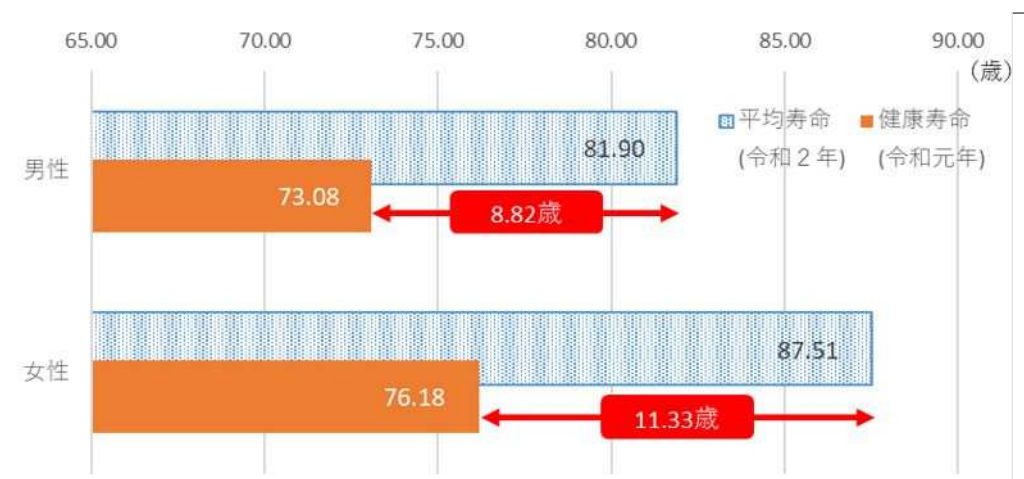
図1-2-8 平均寿命の推移

(単位：歳)



【出典：都道府県別生命表(厚生労働省)、完全生命表(厚生労働省)】

図1-2-9 平均寿命と健康寿命の差



【出典：都道府県別生命表(厚生労働省)、「健康日本21(第二次)」推進専門委員会資料(厚生労働省)】

² 健康寿命：健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。

7 死因

本県における令和3年の死因は、第1位が悪性新生物（がん）、第2位が心疾患、第3位が老衰となっています。平成中期頃から老衰が急増しており、平成28年には脳血管疾患を、平成29年には肺炎を抜いて3位になると、その後も増加し続けています。

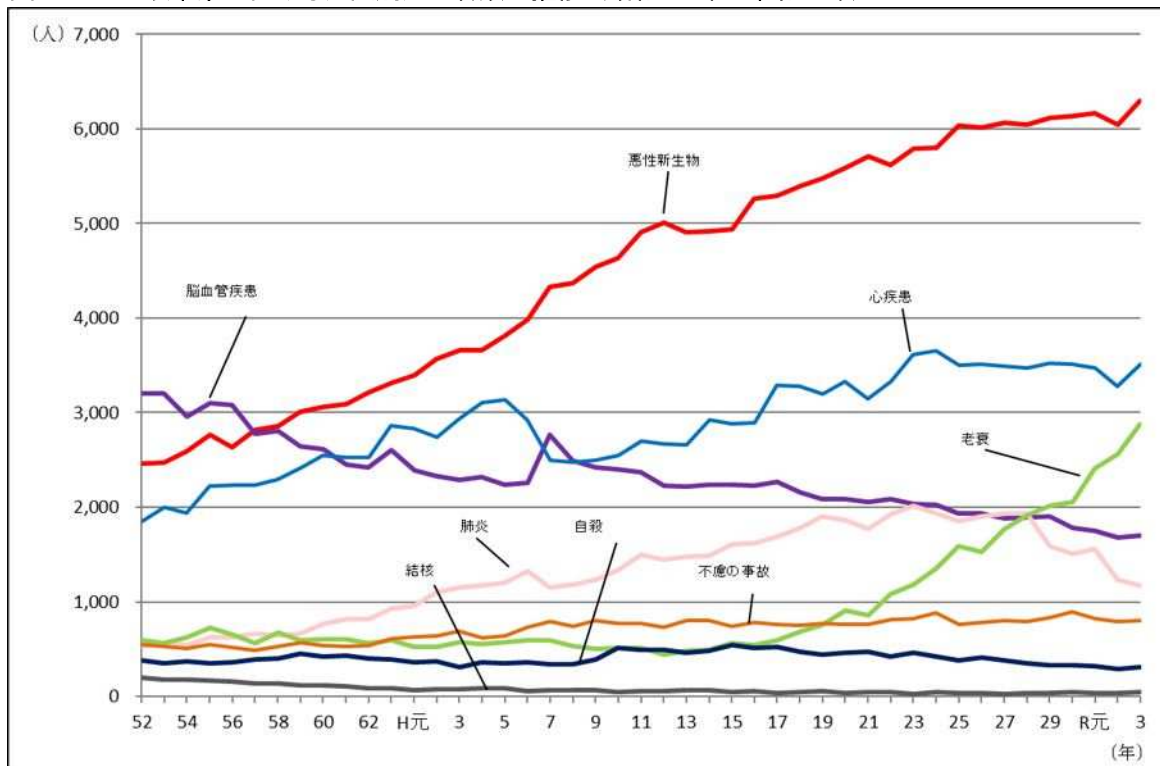
表 1-2-5 岐阜県における死因の順位

(単位：%)

順位	平成29年		令和元年		令和3年	
	死 因	割 合※	死 因	割 合※	死 因	割 合※
1	悪性新生物	26.6	悪性新生物	26.4	悪性新生物	26.1
2	心 疾 患	15.3	心 疾 患	14.8	心 疾 患	14.5
3	老 衰	8.8	老 衰	10.3	老 衰	11.9
4	脳血管疾患	8.3	脳血管疾患	7.5	脳血管疾患	7.0
5	肺 炎	6.9	肺 炎	6.6	肺 炎	4.9
6	誤嚥性肺炎	3.8	誤嚥性肺炎	4.2	誤嚥性肺炎	4.6
7	不慮の事故	3.6	不慮の事故	3.5	不慮の事故	3.3
8	腎 不 全	1.8	腎 不 全	2.0	腎 不 全	2.0
9	大動脈瘤及び解離	1.5	血管性及び詳細不明の認知症	1.5	血管性及び詳細不明の認知症	1.5
10	自 殺	1.4	間質性肺疾患	1.4	大動脈瘤及び解離	1.4

【出典：人口動態統計（厚生労働省）】※死病者数を100としたときの割合

図 1-2-10 岐阜県における死因別死亡者数の推移（昭和52年～令和3年）



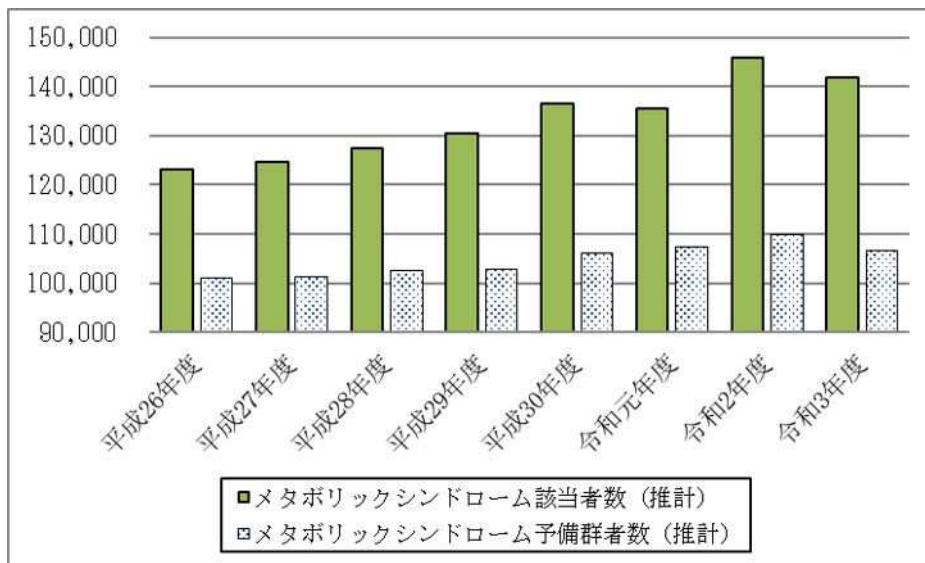
【出典：令和3年岐阜県衛生年報（岐阜県）】

第3節 県民の健康状況

特定健康診査の結果から判別できるメタボリックシンドロームは、心疾患、脳血管疾患や糖尿病など、様々な疾患の原因となります。メタボリックシンドロームの該当者は、ここ数年増減を繰り返しながらも増加傾向です。また、予備群者の推計値も同様の傾向です。

さらに、数値が高いほど糖尿病のリスクが高いとされるHbA1c³については、男女ともやや全国平均を上回っています。数値が高いほど急性心筋梗塞のリスクが高いとされるLDLコレステロール⁴については、男性が全国平均をやや下回る一方、女性は全国平均をやや上回っています。

図1-2-11 県内のメタボリックシンドローム該当者数等の推移 (単位：人)



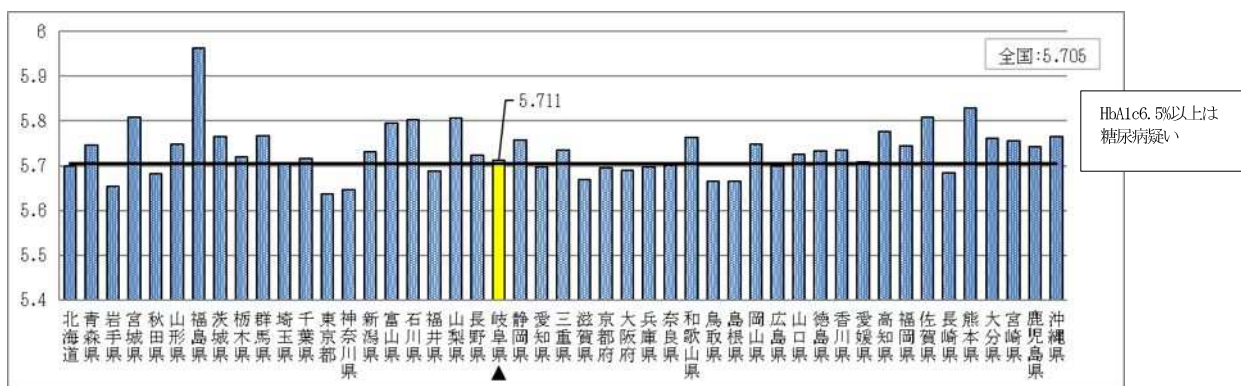
【出典：特定健康診査・特定保健指導・メタボリックシンドロームの状況(厚生労働省) 人口動態統計調査年報(岐阜県)及び国勢調査(総務省統計局)】

※特定健診受診者のうちメタボリックシンドローム該当者及び予備群者に該当した割合に、40歳から74歳の人口を掛けて推計したもの。

図1-2-12 特定健診結果(令和2年度実施分)の全国比較(HbA1c)

男性

(単位：%)

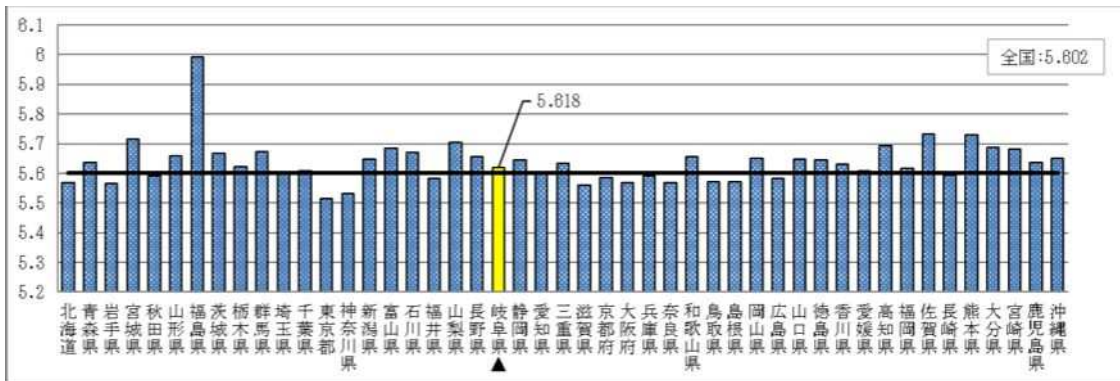


³ HbA1c：ヘモグロビンA1c。ヘモグロビンA1cとはブドウ糖と結びついたヘモグロビン(血色素)で、現時点より過去1~1.5か月間の平均血糖値を反映している。生活や病状を把握するために必要な糖尿病に関する検査で、ヘモグロビンA1c(NGSP値)が6.5%以上の場合、糖尿病を疑い、医療機関(かかりつけ医)への受診勧奨の対象となる。

⁴ LDLコレステロール：特定健康診査の結果、LDLコレステロールが140mg/dl以上の場合、医療機関(かかりつけ医)への受診勧奨の対象となる。

女性

(単位：%)

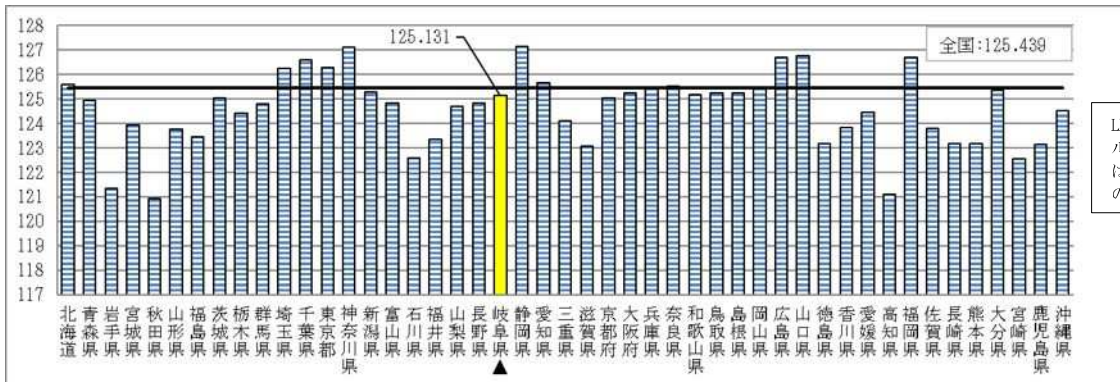


【出典：NDB オープンデータ(厚生労働省)】

図 1-2-13 特定健診結果（令和2年度実施分）の全国比較（LDL コレステロール）

男性

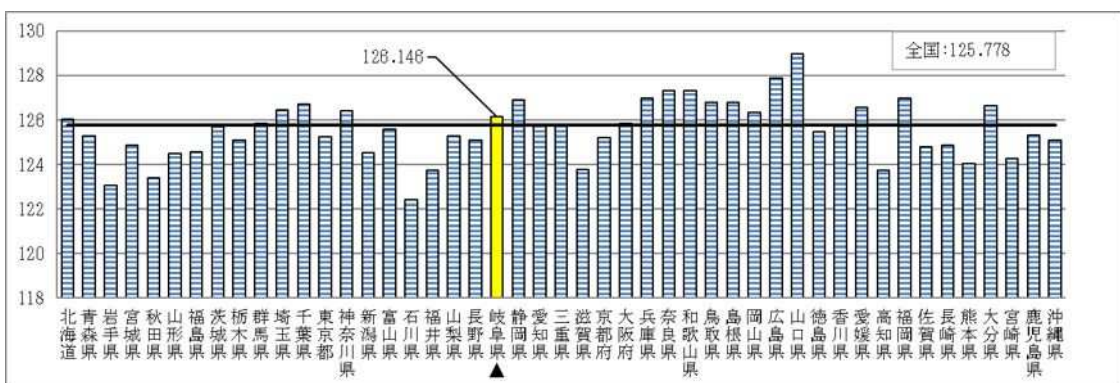
(単位：mg/dl)



LDLコレステロール 140mg/dl 以上は急性心筋梗塞のリスク高

女性

(単位：mg/dl)



【出典：NDB オープンデータ(厚生労働省)】

第4節 保健医療に関する県民の関心

岐阜県では、医療提供体制に対する県民の意識や経年変化を把握するため、平成28年度に引き続き「県民医療意識調査」として、「保健医療のために優先して充実すべきこと」を尋ねました。

1 調査対象

岐阜県に居住する20歳以上の男女4,000人（男性2,000人、女性2,000人）

※住民基本台帳からの無作為抽出

2 調査期間

令和4年11月1日から令和4年11月30日まで

3 調査方法

郵送法・オンライン調査法の併用

4 回収状況

配布数（通）	回答数（通）	回答率（%）
4,000	1,611	40.3

5 調査結果

「在宅ケアの推進」については、前回から5ポイント以上上昇し、5割近くの方が保健医療のために優先して充実すべきものと考えています。また、「保健医療従事者の確保の推進」についても3割を超える方が選択し、前回より2ポイント以上上昇しています。その他、「救急医療体制の整備」、「へき地における医師や医療の確保対策の推進」、「歯・口腔の健康づくりの推進」の3項目で、回答割合が前回よりも2ポイント以上上昇しています。

表 1-2-6 保健医療のために優先して充実すべきこと

項 目	回答割合 ※複数回答		
	平成 28 年度	令和 4 年度	増 減
1 自宅で医療や介護が受けられる在宅ケアを推進する	42.7%	47.9%	5.2%
2 医師・看護師・保健師などの保健医療従事者の確保を推進する	29.2%	32.0%	2.8%
3 健康診査の受診を促進する	27.9%	27.5%	-0.4%
4 がんの予防、早期発見の推進や医療体制を整備する	34.4%	27.2%	-7.2%
5 認知症対策を推進する	41.3%	26.4%	-14.9%
6 救急医療体制を整備する	20.0%	25.0%	5.0%
7 大規模地震など災害時の医療体制を整備する	21.8%	20.1%	-1.7%
8 病院と医院（診療所）との連携を推進する	22.8%	19.6%	-3.2%
9 こころの健康対策を推進する	17.8%	19.0%	1.2%
10 へき地における医師や医療の確保対策を推進する	14.1%	17.0%	2.9%
11 高度で先進的な医療技術の導入を推進する	17.0%	16.6%	-0.4%
12 在宅医療を支えていく看護師の特定行為研修受講を推進する	-	16.2%	-
13 脳卒中、心筋梗塞、糖尿病等の医療を推進する	20.3%	15.3%	-5.0%
14 新興感染症（新型コロナウイルス感染症等）の対策を推進する	-	15.1%	-
15 小児医療体制を整備する	12.8%	14.0%	1.2%
16 健康づくりを推進する（歯・口腔の健康づくりを除く）	14.9%	11.9%	-3.0%
17 インフォームドコンセントを推進する	16.6%	11.8%	-4.8%
18 機能回復のためのリハビリテーションを推進する	11.8%	10.8%	-1.0%
19 歯・口腔の健康づくりを推進する	6.9%	10.2%	3.3%
20 難病患者に対する保健・医療・福祉を推進する	14.3%	10.1%	-4.2%
21 食品の安全対策を推進する	13.1%	9.3%	-3.8%
22 障がい児（者）の医療体制を整備する	6.6%	7.4%	0.8%
23 不妊治療対策を推進する	6.9%	7.2%	0.3%
24 精神障がい者に対する医療・社会復帰体制を整備する	7.4%	6.7%	-0.7%
25 医療事故の防止対策を推進する	10.6%	6.6%	-4.0%
26 医薬品の安全対策を推進する	9.1%	5.6%	-3.5%
27 アレルギー疾患対策を推進する	7.3%	4.4%	-2.9%
28 献血を推進する	3.5%	4.2%	0.7%
29 保健医療への DX（デジタル改革）を推進する	4.8%	4.0%	-0.8%
30 周産期医療体制を整備する	3.9%	3.5%	-0.4%
31 臓器移植・骨髄移植を推進する	5.0%	3.1%	-1.9%
32 薬物乱用防止対策を推進する	5.5%	2.0%	-3.5%
33 結核・エイズなど感染症の対策を推進する	1.0%	0.7%	-0.3%
— その他 ※	3.6%	3.0%	-0.6%

※「その他」の主なもの（令和4年度調査）

- ・医療費の自己負担額の軽減
- ・医療相談体制の充実
- ・医療従事者の環境改善

【出典：県民医療意識調査（岐阜県）】

第2部 医療圏と基準病床数、保健医療資源等の状況

第1章 医療圏と基準病床数等

第1節 医療圏及び構想区域の設定

1 医療圏の設定

県民が等しく医療サービスを受けることができる医療提供体制を確立するため、法第30条の4第2項第14号及び第15号の規定に基づく医療圏を次のとおり設定します。

(1) 一次医療圏（市町村）

身近な医療の実施単位として、住民が日常生活の中で診療を受ける圏域を指します。市町村の区域を単位とします。

(2) 二次医療圏（5圏域）

入院医療を主体とした医療活動が概ね完結する圏域を指します。下記の5圏域を単位とします。

(3) 三次医療圏（県全域）

先進的な技術や特殊な医療、専門性の高い救急医療などを提供する圏域を指します。県全域を単位とします。

表 2-1-1 二次医療圏の人口、面積、区域

圏域名	人口（人）	面積（km ² ）	区域
岐阜	793,551	993.28	岐阜市、羽島市、各務原市、山県市、瑞穂市、本巣市、岐南町、笠松町、北方町
西濃	358,439	1,432.94	大垣市、海津市、養老町、垂井町、関ヶ原町、神戸町、輪之内町、安八町、揖斐川町、大野町、池田町
中濃	364,282	2,454.26	関市、美濃市、美濃加茂市、可児市、郡上市、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村、御嵩町
東濃	323,574	1,562.82	多治見市、中津川市、瑞浪市、恵那市、土岐市
飛騨	138,896	4,177.99	高山市、飛騨市、下呂市、白川村
県計	1,978,742	10,621.29	

【出典：国勢調査（総務省統計局）（令和2年10月1日現在）

令和5年全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院）】

図 2-1-1 二次医療圏区域図



2 構想区域の設定

地域医療構想において、病床の機能の分化及び連携を推進するための基準となる区域として定める構想区域（法第 30 条の 4 第 2 項第 7 号）については、二次医療圏と同一とします。

3 圏域の設定

5 疾病・6 事業及び在宅医療それぞれに係る医療提供体制を構築する際の圏域については、二次医療圏と同一とします。

第2節 基準病床数及び病床の必要量（必要病床数）の設定

1 基準病床数の設定

法第30条の4第2項第17号に規定する基準病床数は、以下のとおりとします。

基準病床数は、病床過剰地域から非過剰地域へ誘導することを通じて、病床の地域的偏在を是正し、全国的に一定水準以上の医療を確保するため、全国统一の算定式により算定するものです。

病床過剰地域では、原則として公的医療機関等の開設・増床が制限されます。岐阜圏域及び飛騨圏域では、療養病床及び一般病床の令和5年9月末現在の既存病床数が、基準病床数を上回っています。

表 2-1-2 基準病床数

病床種別	圏域名	基準病床数（床）
療養病床 及び 一般病床	岐阜圏域	6,908
	西濃圏域	2,568
	中濃圏域	2,725
	東濃圏域	2,666
	飛騨圏域	1,199
	計	16,066
精神病床		3,359
結核病床		48
感染症病床		30

表 2-1-3 既存病床数（令和5年9月30日現在）

病床種別	圏域名	既存病床数（床）
療養病床 及び 一般病床	岐阜圏域	6,955
	西濃圏域	2,403
	中濃圏域	2,700
	東濃圏域	2,369
	飛騨圏域	1,270
	計	15,697
精神病床		3,799
結核病床		101
感染症病床		30

※既存病床数は、病院の開設許可病床数をもとに法第7条の2第4項の規定に基づき補正を行った後の数値です。また、介護医療院⁵への転換分は含まない数値です。

⁵ 介護医療院：要介護者であって、主として長期にわたり療養が必要である者に対し、施設サービス計画に基づいて、療養上の管理、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うことを目的とする施設。

2 病床の必要量（必要病床数）の設定

法第30条の4第2項第7号イに規定する、将来（令和7年（2025年））における医療需要に基づき推計される病床数の必要量（必要病床数）は以下のとおりです。

表 2-1-4 将来（令和7年（2025年））における病床の必要量（必要病床数）

	岐阜圏域	西濃圏域	中濃圏域	東濃圏域	飛騨圏域	合計
高度急性期	869	253	226	236	108	1,692
急性期	2,757	917	902	836	380	5,792
回復期	2,201	744	841	653	326	4,765
慢性期	1,247	516	442	332	192	2,729
合計	7,074	2,430	2,411	2,057	1,006	14,978
在宅医療等 ⁶ 患者数	10,684	4,005	3,934	4,449	1,908	24,980

※在宅医療等患者数は「地域医療構想策定ガイドラインについて」（平成27年3月31日付医政発0331第53号）の別添1「地域医療構想策定ガイドライン」により、在宅医療等に対応すべきとされている入院患者数を含めて算出しています。

※各病床の機能区分は、医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）により、以下のとおり定められています。

表 2-1-5 病床の機能区分

医療機能の名称	医療機能の内容
高度急性期機能	○ 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能 ※高度急性期機能に該当すると考えられる病棟の例 救命救急病棟、集中治療室、ハイケアユニット、新生児集中治療室、新生児治療回復室、小児集中治療室、総合周産期集中治療室など、急性期の患者に対して診療密度が特に高い医療を提供する病棟
急性期機能	○ 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能
回復期機能	○ 急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能。 ○ 特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADL（日常生活動作）の向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能（回復期リハビリテーション機能）
慢性期機能	○ 長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能 ○ 長期にわたり療養が必要な重度の障がい者（重度の意識障がい者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能

⁶ 在宅医療等：居宅、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、介護老人保健施設、その他医療を受ける者が療養生活を営むことができる場所であって、現在の病院・診療所以外の場所において提供される医療。

第2章 保健医療施設等の概況

第1節 医療提供施設の状況

1 病院

病院数は減少傾向にあり、令和2年では97施設となっています。病床数も同様に減少傾向にあり、令和2年では19,782床となっています。

表 2-2-1 病院数及び病床数の推移

	平成14年	平成17年	平成20年	平成23年	平成26年	平成29年	令和2年	
一般病院	99	97	90	91	90	89	85	
精神科病院	13	13	13	13	12	12	12	
計	112	110	103	104	102	101	97	
病床	一般	16,490	12,927	13,029	12,969	13,105	13,138	12,838
	療養	—	3,451	3,461	3,432	3,389	3,199	2,950
	精神	4,360	4,324	4,273	4,192	4,066	3,962	3,863
	結核	341	167	157	137	137	127	101
	感染症	28	28	30	30	30	30	30
	計	21,219	20,897	20,950	20,760	20,727	20,456	19,782

【出典：医療施設調査(厚生労働省)】

表 2-2-2 医療圏別病院数及び病床数（令和2年10月1日現在）

	病院数	病床数計	病床数				
			一般	療養	精神	結核	感染症
岐阜	41	8,429	5,862	1,349	1,170	40	8
西濃	15	3,485	1,890	563	986	40	6
中濃	18	3,242	1,988	543	705	0	6
東濃	14	2,899	2,024	258	598	13	6
飛騨	9	1,727	1,074	237	404	8	4
計	97	19,782	12,838	2,950	3,863	101	30

【出典：医療施設調査(厚生労働省)】

2 診療所

一般診療所の総数は年々増加していますが、無床診療所が増加する一方、有床診療所は減少しています。また、歯科診療所数は増加が続いていましたが、令和2年には減少に転じました。

さらに圏域別の診療所数を人口10万人当たりで見ると、西濃、中濃、東濃圏域でやや少なく、歯科診療所は中濃圏域が少ない状況です。

表 2-2-3 診療所数及び病床数の推移

(単位：ヶ所)

	平成17年	平成20年	平成23年	平成26年	平成29年	令和2年
無床診療所	1,273	1,330	1,386	1,425	1,452	1,487
有床診療所	230	192	184	154	133	123
病床数	2,648	2,205	2,041	1,806	1,657	1,515
計	1,503	1,522	1,570	1,579	1,585	1,610
歯科診療所	929	938	939	947	965	958

【出典：医療施設調査（厚生労働省）】

表 2-2-4 医療圏別一般診療所数及び歯科診療所数（令和2年10月1日現在）

(単位：ヶ所)

	一般診療所			歯科診療所
	無床診療所	有床診療所		
岐阜	704	641	63	440
西濃	259	235	24	181
中濃	270	253	17	134
東濃	246	234	12	147
飛騨	131	124	7	56
合計	1,610	1,487	123	958

【出典：医療施設調査（厚生労働省）】

表 2-2-5 医療圏別一般診療所数及び歯科診療所数（人口10万人当たり）

(令和2年10月1日現在)

(単位：ヶ所)

	一般診療所			歯科診療所
	無床診療所	有床診療所		
岐阜	88.72	80.78	7.94	55.45
西濃	72.26	65.56	6.70	50.50
中濃	74.12	69.45	4.67	36.78
東濃	76.03	72.32	3.71	45.43
飛騨	94.32	89.28	5.04	40.32
合計	81.36	75.15	6.22	48.41

【出典：医療施設調査（厚生労働省）】

3 薬局

薬局数は年々増加しており、令和3年度末現在において1,058施設となっています。人口10万人当たりの薬局数でも、全国値を上回る状況となっています。

表 2-2-6 薬局数の推移

(単位：ヶ所)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	全国 (令和3年度)
薬局数	1,021	1,032	1,040	1,052	1,058	61,791
人口10万対	50.8	51.7	52.3	53.2	54.0	49.2

【出典：衛生行政報告例（厚生労働省）】

第2節 医療従事者の状況

1 医師・歯科医師・薬剤師

県内の医療施設に従事する医師、歯科医師及び薬剤師の数はいずれも増加傾向にあるものの、人口10万人当たりの従事者数では、歯科医師を除いて全国値を下回っています。

圏域別にみると、岐阜圏域は全国値を上回っており、他の圏域は全国値と県全体の値とも下回っています。

表 2-2-7 医療施設従事者数の推移

(単位：人)

	平成 24 年	平成 26 年	平成 28 年	平成 30 年	令和 2 年
医師	4,028	4,141	4,223	4,295	4,442
歯科医師	1,595	1,593	1,637	1,658	1,678
薬剤師※	2,936	3,099	3,155	3,257	3,392

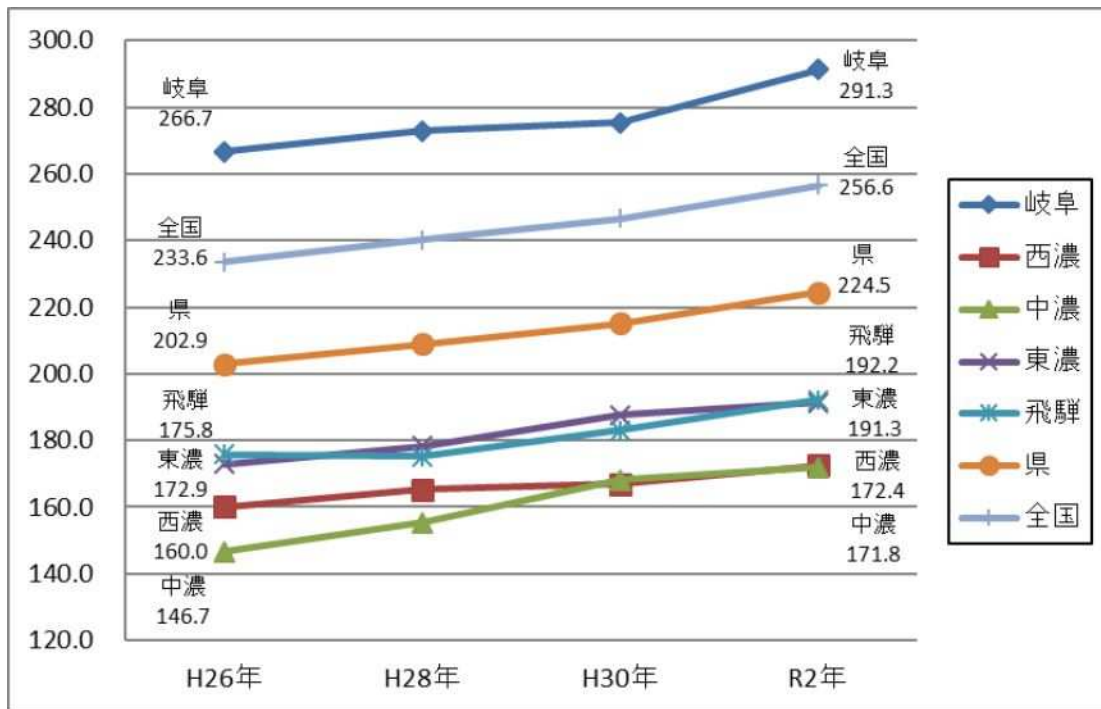
【出典：医師・歯科医師・薬剤師統計（厚生労働省）】

※各年12月31日現在の数値

※薬剤師は薬局・医療施設の従事者数

図 2-2-1 圏域別医師数（人口10万人当たり）

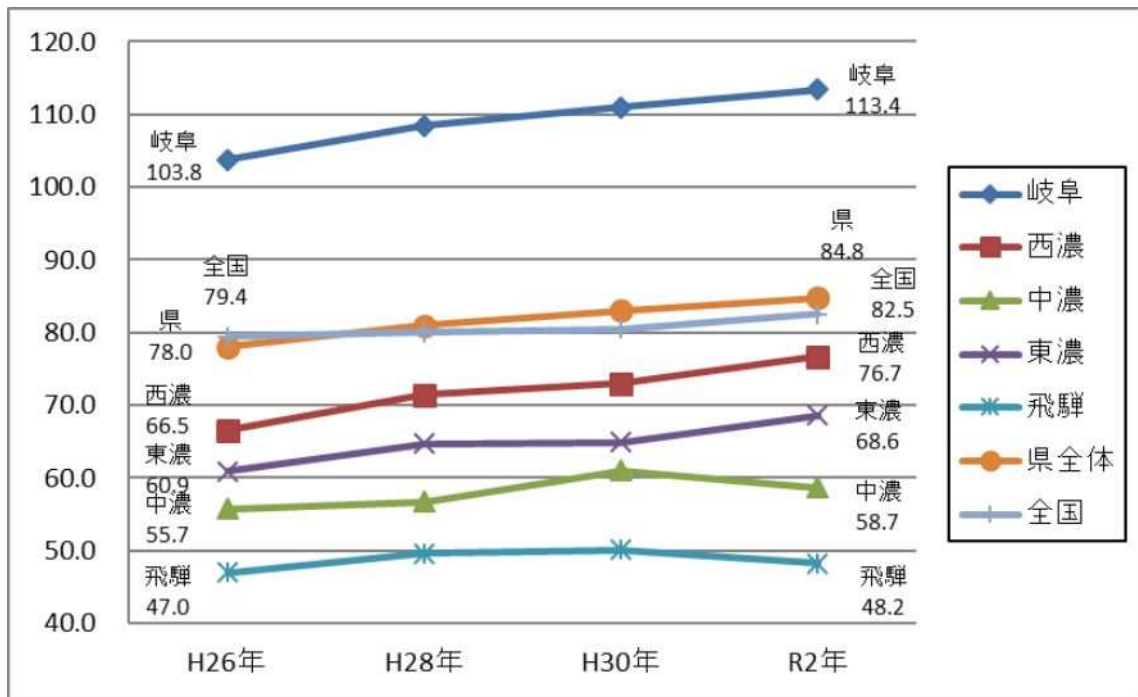
(単位：人)



【出典：医師・歯科医師・薬剤師統計（厚生労働省）】

図 2-2-2 圏域別歯科医師数（人口 10 万人当たり）

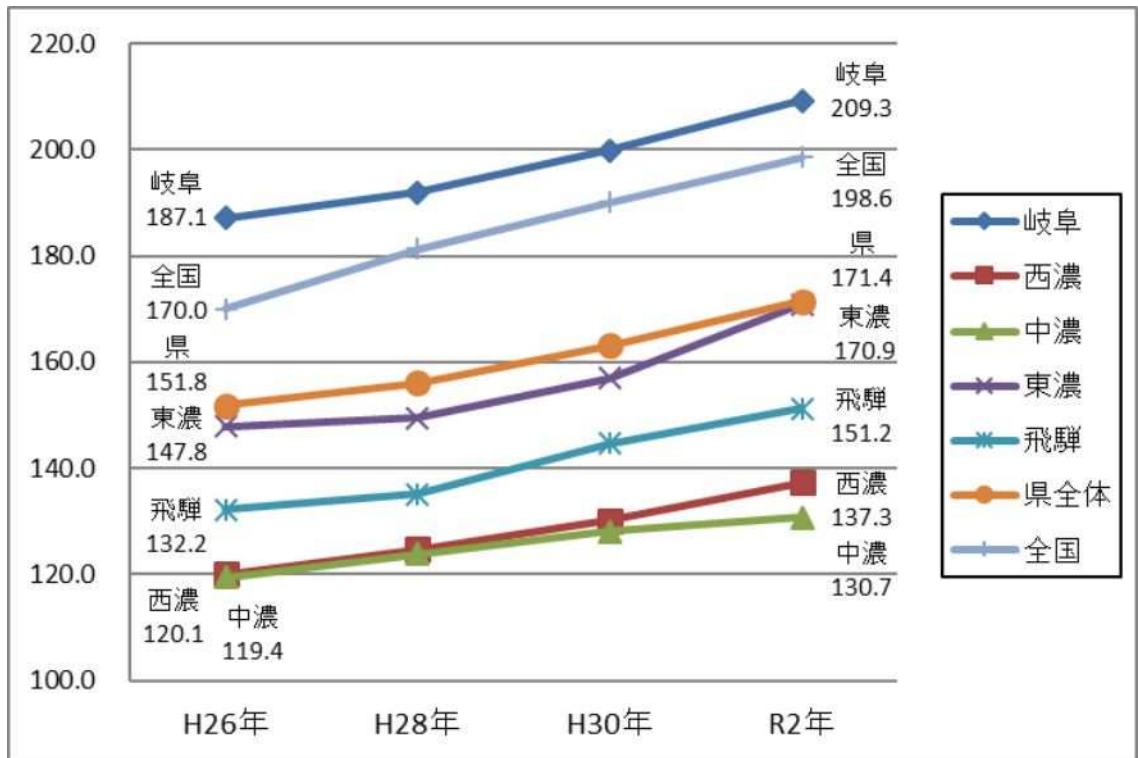
（単位：人）



【出典：医師・歯科医師・薬剤師統計（厚生労働省）】

図 2-2-3 圏域別薬剤師数（人口 10 万人当たり）

（単位：人）



【出典：医師・歯科医師・薬剤師統計（厚生労働省）】

第3節 県民の受療状況

1 患者数の状況

令和2年10月現在における県内の医療機関の推計患者数は、入院患者数が15.2千人、外来患者数が120.0千人となっています。このうち入院患者数は、65歳以上の患者割合が70%以上を占めています。

傷病分類別にみると、入院患者数は「精神及び行動の障害」、「循環器系の疾患」、「新生物」の順に多く、外来患者数では、「消化器系の疾患」、「循環器系の疾患」、「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」の順に多くなっています。

表2-2-8 県内医療機関における年齢階級別・性別推計患者数の状況

(単位:千人)

	平成29年						令和2年					
	入院			外来			入院			外来		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
0～4歳	0.2	0.1	0.1	5.5	3.0	2.5	0.2	0.1	0.1	5.8	3.2	2.6
5～14	0.2	0.1	0.1	6.5	3.5	3.0	0.1	0.1	0.0	9.6	5.3	4.3
15～24	0.2	0.1	0.1	3.8	1.7	2.1	0.2	0.1	0.1	4.4	1.9	2.5
25～34	0.5	0.2	0.4	5.9	2.2	3.7	0.4	0.2	0.2	5.6	1.9	3.6
35～44	0.6	0.3	0.3	7.9	3.2	4.7	0.5	0.2	0.3	8.0	2.6	5.3
45～54	1.1	0.6	0.4	11.4	5.0	6.4	0.9	0.5	0.4	12.0	4.9	7.2
55～64	1.7	1.0	0.7	14.8	6.5	8.4	1.6	1.0	0.6	13.9	5.5	8.4
65～74	3.4	2.0	1.4	27.9	13.3	14.5	3.0	1.7	1.2	24.4	11.1	13.3
75～84	4.6	2.2	2.4	27.2	12.5	14.7	4.2	2.1	2.1	24.5	11.3	13.2
85歳以上	4.3	1.5	2.8	11.2	3.7	7.5	4.0	1.4	2.6	11.4	3.8	7.6
不詳	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.1	0.0	—	0.0	0.2	0.0	0.2
65～(再掲)	12.3	5.7	6.5	66.3	29.6	36.7	11.2	5.2	6.0	60.4	26.2	34.2
70～(再掲)	10.6	4.7	5.8	52.2	22.9	29.3	10.0	4.6	5.4	50.1	21.8	28.4
75～(再掲)	8.9	3.7	5.2	38.4	16.3	22.2	8.2	3.5	4.7	36.0	15.1	20.9
総数	16.8	8.1	8.6	122.3	54.7	67.6	15.2	7.4	7.8	120.0	51.6	68.4

【出典：患者調査（厚生労働省）】 ※それぞれ四捨五入しているため、総数が合計値と一致しないことがある

表 2-2-9 県内医療機関における傷病分類別の推計患者数の状況

(単位：千人)

傷病分類	平成29年		令和2年	
	入院	外来	入院	外来
感染症及び寄生虫症	0.2	2.7	0.2	2.7
新生物	1.9	4.5	1.9	4.2
悪性新生物	1.7	3.3	1.7	3.0
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.1	0.7	0.1	0.4
内分泌、栄養及び代謝疾患	0.4	8.9	0.3	7.2
糖尿病	0.2	4.4	0.2	3.0
精神及び行動の障害	3.1	4.0	2.9	3.8
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	2.2	0.8	2.1	0.5
気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	0.3	1.1	0.3	0.8
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0.1	0.8	0.1	1.0
神経系の疾患	1.1	2.5	1.2	3.1
眼及び付属器の疾患	0.2	5.9	0.1	5.9
白内障	0.1	1.5	0.0	1.2
耳及び乳様突起の疾患	0.0	1.7	0.0	1.8
循環器系の疾患	2.9	17.2	2.6	16.0
高血圧性疾患	0.0	11.9	0.0	11.4
脳血管疾患	1.7	1.2	1.5	1.6
呼吸器系の疾患	1.6	9.0	1.2	8.1
肺炎	0.7	0.1	0.4	0.1
喘息	0.0	1.6	0.0	1.3
消化器系の疾患	1.0	19.2	0.8	23.6
う蝕	-	2.7	-	5.0
肉炎及び歯周疾患	0.0	8.2	0.0	10.5
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	0.0	0.4	0.0	0.2
肝疾患	0.1	0.5	0.1	0.6
皮膚及び皮下組織の疾患	0.2	4.4	0.2	4.6
筋骨格系及び結合組織の疾患	0.8	18.2	0.6	13.6
脊柱障害	0.3	9.1	0.2	7.1
腎尿路生殖器系の疾患	0.7	4.4	0.7	4.5
糸球体疾患、腎尿細管間質性疾患及び腎不全	0.5	2.7	0.5	1.6
前立腺肥大（症）	0.0	0.3	0.0	2.0
乳房及び女性生殖器の疾患	0.1	0.9	0.2	1.0
妊娠、分娩及び産じょく	0.2	0.3	0.2	0.1
周産期に発生した病態	0.1	0.1	0.1	0.0
先天奇形、変形及び染色体異常	0.1	0.3	0.1	0.2
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.2	1.4	0.1	1.1
損傷、中毒及びその他の外因の影響	2.0	6.1	1.7	4.7
骨折	1.4	2.0	1.1	1.6
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0.1	10.9	0.1	14.3
歯の補てつ	-	3.2	-	4.3
総 数	16.8	122.3	15.2	120.0

【出典：患者調査（厚生労働省）】※それぞれ四捨五入しているため、総数が合計値と一致しないことがある

2 入院先の状況と他圏域への流出、他圏域からの流入の状況

患者の住所地と入院先の病院の所在地について見てみると、岐阜圏域に住む患者が自圏域に所在する病院に入院する割合は90%弱と高い一方、中濃圏域や東濃圏域に住む患者はそれぞれ30%弱が県内の他の圏域あるいは県外に入院しています。流出先としては、西濃圏域、中濃圏域に住む患者は岐阜圏域が、東濃圏域に住む患者は愛知県が多い状況です。また、県全体では、県外への流出割合は8～9%、県外からの流入割合は3～4%となっています。

なお、傷病分類別の入院先の状況では、特に特定の傷病で県外流出が大きいという状況はありません。

表 2-2-10 入院に見る他圏域への流出状況と他圏域からの流入状況

[平成 29 年 10 月]

(単位:千人)

		患者住所地別推計入院患者数	施設所在地								患者流出割合 (%)	
			県内						県外			
			岐阜圏域	西濃圏域	中濃圏域	東濃圏域	飛騨圏域	計	愛知県	富山県		
施設所在地別推計入院患者数			7.0	2.8	2.7	2.3	1.4	16.1				
患者住所地	県内	岐阜圏域	6.5	5.8	0.3	0.1	0.0	—	6.2	0.3	0.0	10.8
		西濃圏域	2.9	0.4	2.4	0.0	0.0	—	2.8	0.1	0.0	17.2
		中濃圏域	3.3	0.5	0.0	2.4	0.1	0.0	3.0	0.2	—	27.3
		東濃圏域	2.8	0.0	0.0	0.1	2.0	0.0	2.2	0.6	—	28.6
		飛騨圏域	1.5	0.0	—	0.0	—	1.3	1.4	0.1	0.1	13.3
	計	17.0	6.7	2.7	2.6	2.2	1.4	15.5	1.2	0.1	8.8	
	県外	愛知県		0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4			
	滋賀県		0.0	0.1	0.0	—	—	0.1				
患者流入割合 (%)			17.1	14.3	11.1	13.0	7.1	3.7				

[令和 2 年 10 月]

(単位:千人)

		患者住所地別推計入院患者数	施設所在地								患者流出割合 (%)	
			県内						県外			
			岐阜圏域	西濃圏域	中濃圏域	東濃圏域	飛騨圏域	計	愛知県	富山県		
施設所在地別推計入院患者数			6.3	2.7	2.5	2.0	1.2	14.7				
患者住所地	県内	岐阜圏域	5.8	5.1	0.3	0.1	0.0	0.0	5.4	0.3	0.0	12.1
		西濃圏域	2.8	0.5	2.2	0.0	0.0	—	2.7	0.1	—	21.4
		中濃圏域	3.1	0.4	0.0	2.3	0.1	0.0	2.8	0.2	—	25.8
		東濃圏域	2.5	0.1	0.0	0.1	1.8	0.0	2.0	0.4	—	28.0
		飛騨圏域	1.4	0.1	0.0	0.0	—	1.1	1.2	0.0	0.1	21.4
	計	15.5	6.1	2.6	2.5	2.0	1.2	14.2	1.1	0.1	8.4	
	県外	愛知県		0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3			
	滋賀県		0.0	0.0	0.0	—	—	0.0				
患者流入割合 (%)			19.0	18.5	8.0	10.0	8.3	3.4				

【出典：患者調査（厚生労働省）】

※それぞれ四捨五入しているため、計が各数の和と一致しないことがある

※「患者流出割合(%)」欄は、各圏域等の患者住所地別推計入院患者数から自圏域等内の施設所在地別推計患者数を減じた数を、患者住所地別推計患者数で除して得られた値を表示（患者流入割合も同様）

表 2-2-11 傷病分類別に見た入院先の状況

(単位：千人)

傷病分類	平成29年			令和2年		
	総数	県内	県外	総数	県内	県外
感染症及び寄生虫症	0.2	0.2	0.0	0.2	0.2	0.0
新生物	2.0	1.8	0.2	2.0	1.9	0.2
悪性新生物	1.8	1.7	0.2	1.9	1.7	0.2
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	-
内分泌、栄養及び代謝疾患	0.4	0.4	0.0	0.3	0.3	0.0
糖尿病	0.2	0.2	0.0	0.2	0.2	0.0
精神及び行動の障害	3.3	3.0	0.3	3.0	2.8	0.3
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	2.4	2.1	0.2	2.2	2.0	0.2
気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	0.3	0.3	0.0	0.3	0.2	0.0
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0
神経系の疾患	1.2	1.0	0.1	1.3	1.1	0.2
眼及び付属器の疾患	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0
白内障	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0
耳及び乳様突起の疾患	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
循環器系の疾患	3.1	2.8	0.3	2.7	2.5	0.2
高血圧性疾患	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
脳血管疾患	1.8	1.6	0.2	1.6	1.5	0.1
呼吸器系の疾患	1.6	1.6	0.1	1.2	1.2	0.0
肺炎	0.7	0.7	0.0	0.4	0.4	0.0
喘息	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-
消化器系の疾患	1.0	0.9	0.1	0.9	0.8	0.0
う蝕	-	-	-	-	-	-
肉炎及び歯周疾患	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
肝疾患	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0
皮膚及び皮下組織の疾患	0.2	0.2	0.0	0.2	0.2	-
筋骨格系及び結合組織の疾患	0.9	0.8	0.2	0.7	0.6	0.1
脊柱障害	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2	0.0
腎尿路生殖器系の疾患	0.7	0.7	0.0	0.7	0.7	0.0
糸球体疾患、腎尿細管間質性疾患及び腎不全	0.5	0.4	0.0	0.5	0.5	0.0
前立腺肥大（症）	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-
乳房及び女性生殖器の疾患	0.1	0.1	-	0.2	0.2	0.0
妊娠、分娩及び産じょく	0.2	0.2	0.0	0.2	0.1	0.0
周産期に発生した病態	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0
先天奇形、変形及び染色体異常	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.2	0.2	0.0	0.2	0.1	0.0
損傷、中毒及びその他の外因の影響	2.0	1.9	0.1	1.7	1.6	0.1
骨折	1.4	1.4	0.1	1.2	1.1	0.1
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0
歯の補てつ	-	-	-	-	-	-
総数	17.6	16.1	1.5	16.0	14.6	1.3

【出典：患者調査（厚生労働省）】 ※それぞれ四捨五入しているため、総数が合計値と一致しないことがある

3 平均在院日数

県内の病院及び療養病床有床診療所における平均在院日数は 24.1 日で、全国値と比べても短く、短縮傾向にあります。短縮幅は小さくなってきており、病床の種類別に見ると療養病床や精神病床は増加に転じています。

圏域毎にも平均在院日数に差が見られ、特に療養病床では、飛騨圏域の平均在院日数が全国値を大きく上回る一方、東濃圏域の平均在院日数は大きく下回っており、その差が顕著です。

表 2-2-12 病院及び療養病床を有する診療所における患者の平均在院日数の推移 (単位:日)

		平成22年	平成25年	平成28年	令和元年
総病床	岐阜県	26.9	25.7	24.6	24.1
	愛知県	27.6	25.8	24.0	23.0
	三重県	33.2	31.1	28.8	27.6
	全国	32.5	30.6	28.5	27.3
一般病床	岐阜県	16.5	16.0	15.6	15.2
	愛知県	16.1	15.2	14.0	13.7
	三重県	17.9	17.0	15.9	15.5
	全国	18.2	17.2	16.2	16.0
療養病床 (介護療養病床を含む)	岐阜県	136.4	124.3	112.0	116.1
	愛知県	171.8	158.5	142.4	122.3
	三重県	163.5	157.4	135.5	117.8
	全国	176.4	168.3	152.2	135.9
介護療養病床	岐阜県	194.9	131.0	154.8	220.1
	愛知県	320.3	351.4	256.7	326.3
	三重県	301.5	349.6	378.7	381.1
	全国	300.2	368.6	314.9	301.4
精神病床	岐阜県	306.7	265.8	256.6	265.5
	愛知県	281.3	264.1	250.0	239.4
	三重県	321.0	308.4	310.5	306.8
	全国	301.0	284.7	269.9	265.8
結核病床	岐阜県	68.9	66.1	72.3	63.2
	愛知県	76.9	76.3	65.1	64.8
	三重県	41.5	45.2	65.6	81.8
	全国	71.5	68.8	66.3	64.6

【出典：病院報告（厚生労働省）】

表 2-2-13 圏域別の平均在院日数の状況

(単位:日)

一般病床

	平成22年	平成25年	平成28年	令和元年
岐阜	16.2	16.1	15.7	15.5
西濃	17.9	17.3	15.9	14.5
中濃	17.5	16.9	17.6	16.5
東濃	15.2	14.0	13.2	13.6
飛騨	16.0	15.4	15.8	15.9
県	16.5	16.0	15.6	15.2
全国	18.2	17.2	16.2	16.0

療養病床

	平成22年	平成25年	平成28年	令和元年
岐阜	181.2	163.0	137.7	118.9
西濃	159.6	138.5	107.1	92.6
中濃	94.4	99.9	119.9	147.1
東濃	70.7	61.6	52.2	83.4
飛騨	331.9	261.3	347.2	236.7
県	136.4	124.3	112.0	116.1
全国	176.4	168.3	152.2	135.9

【出典：病院報告（厚生労働省）】

4 病床利用率

県内の病院及び療養病床有床診療所における病床利用率は75.1%で、愛知県や三重県、全国値と比べても低くなっています。病床の種類別に見ても、精神病床以外については、全国値よりも低い状況です。圏域別では、一般病床の病床利用率が西濃圏域、東濃圏域及び飛騨圏域で低くなっています。また、東濃圏域を除いて減少傾向にあります。一方、療養病床の病床利用率は東濃圏域及び飛騨圏域で高く、西濃圏域が低くなっています。

表 2-2-14 病院及び療養病床を有する診療所における病床利用率の推移 (単位：%)

		平成22年	平成25年	平成28年	令和元年
総病床	岐阜県	78.3	77.6	76.1	75.1
	愛知県	83.0	71.3	80.0	80.8
	三重県	81.9	79.9	79.2	80.3
	全国	82.3	81.0	80.1	80.5
一般病床	岐阜県	73.5	73.1	71.7	70.3
	愛知県	76.9	76.0	74.7	76.8
	三重県	74.9	73.7	73.6	75.6
	全国	76.6	75.5	75.2	76.5
療養病床 (介護療養病床を含む)	岐阜県	83.2	80.8	80.5	78.0
	愛知県	93.3	90.2	87.9	85.3
	三重県	89.1	87.7	85.9	85.9
	全国	91.7	89.9	88.2	87.3
介護療養病床	岐阜県	89.9	80.8	85.9	82.1
	愛知県	95.1	91.7	91.3	90.5
	三重県	95.3	93.9	91.5	89.8
	全国	94.9	93.1	91.4	90.7
精神病床	岐阜県	91.6	91.6	89.1	90.7
	愛知県	92.2	89.2	88.3	89.1
	三重県	93.2	88.8	87.5	87.5
	全国	89.6	88.1	86.2	85.9
結核病床	岐阜県	30.1	28.8	26.4	21.6
	愛知県	50.2	53.2	47.5	46.6
	三重県	31.2	36.4	35.6	48.6
	全国	36.5	34.3	34.5	33.2

【出典：病院報告（厚生労働省）】

表 2-2-15 圏域別の病床利用率の状況

(単位：%)

一般病床

	平成22年	平成25年	平成28年	令和元年
岐阜	74.7	75.3	73.8	73.0
西濃	80.0	76.0	73.2	66.6
中濃	79.7	80.1	77.1	75.3
東濃	67.0	63.4	62.3	65.6
飛騨	59.8	63.4	65.6	61.3
県	73.5	73.1	71.7	70.3
全国	76.6	75.5	75.2	76.5

療養病床

	平成22年	平成25年	平成28年	令和元年
岐阜	86.9	80.4	82.8	81.0
西濃	71.3	74.6	70.4	69.0
中濃	82.8	82.8	80.9	76.4
東濃	91.5	89.4	85.6	84.9
飛騨	86.3	84.7	89.5	83.5
県	83.2	80.8	80.5	78.0
全国	91.7	89.9	88.2	87.3

【出典：病院報告（厚生労働省）】